

## 大台警察署設計業務委託公募型プロポーザル方式 審査結果

### 1 特定結果

特定者 : 株式会社大建設 名古屋事務所

### 2 プロポーザル方式実施の経緯

現在の太台警察署は、中南勢地域の南西部に位置し、太台町及び大紀町を管轄する警察署として、昭和41年に建築されました。しかし、建築後50年超が経過し、老朽化、狭隘化が著しく、来訪者の駐車スペースも十分に確保できておりません。これらの課題を解決する対応として、移転整備を進めるにあたり、質の高い建築設計を行うために高い技術力、創造性、経験などを有する設計者を選定できる公募型プロポーザル方式を実施しました。

### 3 審査経過

#### (1) 第一次審査

参加申込者(4者)から提出のありました技術提案書(一次審査用)について、技術者の業務実績等に対する採点(絶対評価)や業務の実施体制及び建築計画の基本方針に対する技術提案による採点(技術力評価)を行い、技術提案書(二次審査用)の提出者(4者)を選定しました。

採点項目	配点	A社	B社	C社	D社
		技術評価点	技術評価点	技術評価点	技術評価点
絶対評価	70.0	67.0	68.0	70.0	49.0
技術力評価	30.0	19.8	27.0	25.2	12.6
合計	100.0	86.8	95.0	95.2	61.6
選定結果		選定	選定	選定	選定

#### (2) 第二次審査(技術提案書の特定)

第二次審査では、①建築計画「計画地の周辺環境・立地特性を踏まえつつ、地域に開かれた警察署として適切な諸室と動線を配置し、警察署として必要な建物性能を有し、かつ待機宿舎等として居住者の利便性及び快適性を兼ね備えた建築計画」および「災害時においても警察機能を維持し、災害支援物資及び応援部隊の受け入れ施設として十分に機能する建築計画」、②敷地利用計画「敷地周辺の状況を考慮するとともに、来客者や職員等にとって利便で分かりやすく、かつ警察施設としてのセキュリティに配慮した建築物や駐車場等の敷地利用計画」、③環境配慮「環境負荷およびライフサイクルコストの低減」についての3つの特定テーマを設定して、技術提案を求めました。

第一次審査選定者から提出された技術提案書(二次審査用)に基づき、ヒアリングを実施しました。

審査委員ごとに、技術提案書およびヒアリングに基づき、技術提案書の特定テーマにおける「提案的確性」、「提案の独創性」、「提案の実現性」について採点し、さらに、ヒアリングにおける「質問に対する応答性」、「専門性及び取組意欲」について採点しました。各審査委員の採点合計を算術平均し、第二次審査の技術評価点としました。

第一次審査と第二次審査の技術評価点の合計においてB社とC社が同値で上位となりましたが、「大台警察署建築工事設計業務委託 プロポーザル方式評価項目一覧」の「技術提案書の特定・評価方法等」

に示される同状況下における特定方法\*に従って「特定テーマ（１），（２），（３）の合計」の得点が高いB社（株式会社大建設 名古屋事務所）を特定者としました。

採点項目		配点	A社	B社	C社	D社
			技術評価点	技術評価点	技術評価点	技術評価点
第一次審査		100.0	86.8	95.0	95.2	61.6
第二次審査	技術提案書 （特定テーマ （1）（2）（3）の合計）	150.0	103.0	111.2	109.8	—
	ヒアリング （コミュニケーション力、 専門技術力及び 取組姿勢の合計）	50.0	31.2	39.2	40.4	—
合計（技術評価点）		300.0	221.0	245.4	245.4	—
特定結果				特定*		辞退

※「大台警察署建築工事設計業務委託 プロポーザル方式評価項目一覧」の「技術提案書の特定・評価方法等」に次の記載をしておりこれに沿って特定を行った。

一次審査と二次審査の得点の合計が同点の場合は、以下の順序で得点が高いものを特定

「特定テーマ（１），（２），（３）の合計」→

「コミュニケーション力、専門技術力及び取組姿勢の合計」→「業務内容に対する技術提案」→

「管理技術者」→「意匠主任技術者」→「構造主任技術者」→「設備主任技術者」

#### 4 講評

##### （１）特定者【B社：株式会社大建設 名古屋事務所】の提案

まず提案書について、冒頭に本計画地の特性を明示したことをはじめ、大変理解しやすい構成であることが評価されました。内容面では、特定テーマ(1)建築計画について、今回の設計条件全般についてきめ細やかな検討がなされており、1階ホールの高い開放性、窓口動線計画に見られた利用者へのわかりやすさへの配慮、1階ホールに災害対策室を直結させた地域への開かれに対する意識、さらに、災害対策室と2階訓授室・会議室などを災害時に一体的に活用する考え方などが高く評価されました。また、特定テーマ(2)敷地利用計画について、周辺や住戸からの視線を意識した通入口・護送口・霊安室の位置、およびダウンウォッシュの影響を十分考慮したヘリポート中心から庁舎棟の離隔（水平距離50m以上）を実現する建物配置・外構計画が、特定テーマ(3)環境配慮について、これまでの実績に基づいた密度の高い提案がなされていたことが評価されました。

なお、夜間出入口の計画、一般エリアと警察エリアを区分するセキュリティウォールの形状などについて再検討が必要との意見が出されましたが、いずれにしても、全体として密度の高いバランスの取れた優れた提案となっており、設計者の取り組み姿勢と熱意が高く評価されました。

##### （２）次点【C社】の提案

本提案についても、今回の設計条件全般に対するきめ細やかな検討がなされた、全体として密度の高いバランスの取れた優れた提案であるとして高く評価されました。とりわけ、特定テーマ(1)建築計画

について、建物正面となる北面に、1階ではホールを広く取り、2階では逆に執務スペースを配した、「常夜灯」の表現にも示される昼夜を問わない地域への見守りと開かれ方を強く意識した構成が何より高く評価されました。特定テーマ(2)敷地利用計画についても、地域への開かれと災害時対応の両面を意識した災害対策室に関する建物における位置付けと対応させた外構計画がなされ、これも高く評価されました。

なお、3階待機宿舎への宿舎居住者動線の一般利用動線との分離、災害時の電源供給等において、提案書から読み取れない部分があり、その一部においてヒアリングで確認が行われるとともに、そこでの再検討の必要性の意見が出されました。

### (3) 次次点【A社】の提案

本提案については、まず提案書について要請に丁寧に応えられており、大変理解しやすい構成であることが評価されました。内容面では、特定テーマ(1)建築計画について、3階待機宿舎の住戸を全て南面配置としていることが独自のものでした。また、方位を厳密に捉え、北西（北ではなく）に面する建物正面における西日に配慮し、周囲の山並み、宮川の水面イメージを取り入れた曲面ルーバーに象徴される、良い意味で一般的な警察署らしくない外観デザインに独自色が出されており、評価されました。そのいずれにおいても（特に前者において）メリットと共に他の計画要素への影響というデメリットもあり、それに対する評価が分かれました。また、各課におけるサービスに対する利用者動線の整理が明らかでなかったことが惜しまれました。

### (4) 総評

今回のプロポーザルは、幹線道路から少し奥まった立地、医療施設やヘリポートと隣接、敷地内に土砂災害警戒区域等があること、および道場、留置所がなく、一方では、署長公舎に加え待機宿舎が併設されることなど、これまで三重県であり例のない建築条件を有していました。その中、各者とも周到な検討による優れた提案をいただき、本計画に対する熱意と意欲をお示しいただきました。この場を借り深く感謝申し上げます。

さて、3者の技術提案書を総合的に見た場合の共通点・相違点を以下に述べます。敷地利用計画については、様々な有益な工夫をいただきましたが、道路付けや来客用／職員用の駐車場の配置、および庁舎と附属棟の位置関係は概ね共通しており、今回の設計条件における敷地の制約の大きさが現れていました。

建築計画では、庁舎棟について、ファサードデザインにも反映される両端に縦動線を設けたツインコア構成の採用、それにもより可能となる縦動線も含めた来庁者・職員・宿舎居住者の領域分けなどのセキュリティ確保は概ね共通していました。1階については、北側の来客駐車場に対しどのような部屋を設け屋内外の開放性や視認性を実現するかのかの考え方、ホールの形状およびカウンター間口と関連諸室への動線計画に違いが見られました。また2階との関係の中で、防災対策室・訓授室・会議室の位置や他室との連続性等に違いが見られました。3階については、北側に住戸を設けるか否かに違いが見られました。

以上の通り、3者の技術提案書については、共通点・相違点がありましたが、いずれも警察署建築に関する深い経験、優れた知識・技術に基づくものであり、設計条件をよく読み込んだ優れた内容でした。いずれの案を採用しても魅力的な警察署が実現することを期待させるものでありましたが、技術提案書に加え、プレゼンテーション・質疑応答の内容を評価して厳正に審査を行い、規定に従って最も評価

の高い者を特定しました。

最後に、短い準備期間にも関わらず、多大な労力を注ぎ意欲的な提案をしていただきました参加者の皆様の熱意と誠意ある対応に、心より感謝を申し上げます。

大台警察署建築工事設計業務委託  
プロポーザル方式技術審査委員会  
委員長 高井 宏之